



学園長 淩 了 禿

どのいのちも素晴らしい

皆さん、お元気ですか。昨秋は本学同窓会の50周年の諸行事が、式典を中心として多彩に行われました。記念事業の建学精神モニュメントも同窓会の多額のご協力で堂々と完成、記念誌も皆さんのお母校愛を示すがごとく立派に刊行され、思い出多き50周年でした。

さて今年は明治31年に学園が創立されて120周年。この秋には高校では式典を挙げて創立者の念願の大切さを、混迷深まる現代社会に広くアピールしたいと計画しています。

先日、私はある話に打たれました。それは北海道旭川の旭山動物園元園長の坂東さんの言葉です。

「普通、動物園では珍しい動物や施設で客を集めますが旭山は違います。動物達のありのままの中に素晴らしさや、そこさがありあります。人間の価値観を基準にして動物を見せるのではなく、動物のありのままの生態を通して、それがいかに尊く素晴らしいものであるかを伝える場にしたいのです。」

初代学長禿了信氏は建学精神「仁愛兼濟」、中でも「兼濟」の実践を重視され、「和敬・精進・反省」を学是として高く掲げられました。我々後継者に「いのちの花を育てるために役立つことが生きる喜びの源である」という信念を育てよ」と言い遺されました。次は師の言葉です。

「仁愛兼濟」は四恩報謝の人生だが、「恩」という漢字は固い窮屈な感じがする。それを「めぐみ」と読めば温かい喜びが感じられる。恵みは芽含み、芽萌みである。人それぞれに内在する固有の力を發揮させる天地

宇宙の力である。我々は恵みの中の存在である。限りなく生かされている自己のいのちの尊さの発見、そこにいのちの花は咲く。生かされているという自覚は偉大な自己発見である。」

さて今年は明治31年に学園が創立されて120周年。この秋には高校では式典を挙げて創立者の念願の大切さを、混迷深まる現代社会に広くアピールしたいと計画しています。

初代学長禿了信氏は建学精神「仁愛兼濟」、中でも「兼濟」の実践を重視され、「和敬・精進・反省」を学是として高く掲げられました。我々後継者に「いのちの花を育てるために役立つことが生きる喜びの源である」という信念を育てよ」と言い遺されました。

「普通、動物園では珍しい動物や施設で客を集めますが旭山は違います。動物達のありのままの中に素晴らしさや、そこさがありあります。人間の価値観を基準にして動物を見せるのではなく、動物のありのままの生態を通して、それがいかに尊く素晴らしいものであるかを伝える場にしたいのです。」

時間の経つのは早いもので、リユースされたキャンバスの風景もすっかり日常の中に融け込み、これら事業にご参加、ご協力いただきました同窓生の皆様方には改めて感謝申し上げる次第です。

昨秋盛大に行われた「六和会」創設50周年の記念行事をもちまして、半世紀に一度の大行事もめでたく完結いたしました。平成25年に基本構想委員会を立ち上げて以来、4か年にわたりて附属幼稚園の全面改築も含め様々な事業が展開されました。一連の50周年の事業は、本学の教育研究の原点を皆で確認するとともに、さらに未来に向かつて力強く歩み続けるエネルギーとなつたと感じています。これらの事業にご参加、ご協力いただきました同窓生の皆様方には改めて感謝申し上げる次第です。

時間の経つのは早いもので、リユースされたキャンバスの風景もすっかり日常の中に融け込み、新たに入学してきた学生は無論のこと、永らく勤務していた職員さえ、以前のことを思い出すのに時間がかかることがあります。会員諸姉の中にいる時間がかかることがあります。会員諸姉の中には、開学当初の建物がなくなつたことは、いささか寂しいと感じられる向きもありましようが、気持ちの良い学習環境で元気に活動している学生諸君に免じてお赦しを願いたいと存じます。

さて、今回のキャンパスリニューアルで前庭には随分とゆとりができ、正面に設置された「仁愛兼濟」のモニュメントとあいまつて外観が一変してしまいましたが、校舎内から望める周囲の景色にもいささか変化があります。特に、4階の大講義室の窓からは、加越国境方面の山々がよく見通せるようになりました。また、グランド側にせり出した新C

山々の景色に寄せて



学長 宣 正 禿

館のカフェエテリアからも、グランド越しに奥越の山々を眺めながら食事をすることができます。教室の窓越しに山々が見えるのも、授業で疲れた目を休めたりするにはいいのですが、残念なのは、あの初冬や春先に白く輝く白山の優美な姿がキャンバスからは見えないことです。白山は県内の各地から望むことができ、私も写真を撮りにあちこち行ってみたこともあります。短大キャンバスから行つてみたこともあります。短大キャンバスからは、図書館から別山がかるうじて望めるだけです。

その白山については、禿了信先生が作詞された学歌「ねがい」に、「白山の高き白雪、九頭龍の精らに汲みて」と詠じこまれております。本学の建学の精神を白山の白雪に、そしてそれが滔々と伝わっていくことを九頭龍川の流れに喩えられたことであります。あるいは、白雪は創立者了教師、すみ先生の願い、また九頭龍はそれを創立以来20年にわたって努力して伝えてくれた学園の諸先輩や卒業生の方々ととらえれば良いのかもしれません。リユースされたキャンバスが本学の建学の精神を将来に向けて伝え、また集うその時々の学生が豊かな経験をしながら「美しい明日を拓く」人材として成長する場となるよう、教職員一同でさらなる努力をしてまいりたいと思います。

本学の教育・研究のさらなる充実に、同窓会並びに会員諸姉の皆様方の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



